

普賢 Fugen

徒然寺報



発行所: 天台宗高龍山明王院普賢寺
発行人: 普賢寺 広報部
〒183-0004 東京都府中市紅葉丘2-26-4
電話 042-369-2278 / FAX : 042-336-2610
URL: <http://www.fugenji.com>
メール: jokan@fugenji.com



神と仏

先日

先日、ご縁がありまして埼玉県飯能にある天台宗の寺院「竹寺」にて屋外で行う護摩、採燈護摩に出仕させていただきました。この竹寺というお寺は、牛頭天王を本尊とするお寺で、神仏習合を感じることの出来る、今では稀有なお寺となっております。牛頭天王は、インドの祇園精舎の守護神とも言われ、大陸からの思想宗教と相まって平安時代には多くの信仰を集めるようになりました。仏教側から見れば薬師如来の化身であり、神道側から見ればスサノオと同一とする尊格で、とてもユニークな神様です。

牛頭天王で有名な神社としては、京都の八坂神社があります。伝記によれば、ある晩、泊まる場所に困っていた牛頭天王をもてなしをしてくれた蘇民将来という男に対して、宿泊のお礼として「茅の輪」を渡しました。その茅の輪を身に着ければ、疫病が流行る時でも子孫は護られるだろう、と伝え、昨今ニュースでもよく見る疫病除けの「茅の輪」信仰や独特な護符の形をした「蘇民将来子孫」信仰が多くの民衆にも広がりました。



余談ですが、京都の八坂神社は、明治時代の廃仏毀釈以前は「祇園感神院」という名で、神仏習合が盛んな神社でもあり、比叡山延暦寺の末寺にも入っており、修行中に八坂神社の境内から国と玉体の安寧を祈禱させていただきました。そんな牛頭天王の記念御開帳に合わせて行われた儀式が、採燈護摩でした。この護摩は修験道という、日本独自の山岳信仰で伝承されてきた儀式



竹寺 牛頭天王

です。屋外にて結界を張り、薪を井形に組んでヒノキやヒバの葉で覆った護摩壇を築きます。作法を終えると、護摩壇をならして残り火の上を歩く「火渡り」も行います。僧侶の後に一般の方も参加され、身体健全や息災を祈りました。これらの儀式や作法に通ずるものとして「浄める」という考え方があります。神道にも仏教にも、火と水は心身を浄めるために欠かせないものであり、普段の法要儀式の際にも火と水を用いております。「かみ」の語源は、火と水から来ているという説もあるほどです。火と水によってその場を浄め、参加者を浄め、清浄なる世界を作ることが主願とも言えます。

明治時代の廃仏毀釈という、神仏を分離させてしまった政策の影響で、神社と寺院は別物であるという考え方が今なお残っております。しかし、日本の歴史を見れば神道と仏教がいかに融合してきたか、習合してきたかは明白です。神と仏を無理に別物として捉えるのではなく、神も仏も私たちを護る、敬うべき尊格であり、神道も仏教も修験道も、大切なことを肝要であると強く感じます。閉塞感が充満し、混沌とする世界だからこそ、広大な山川草木に神仏を感じ、心身を委ね、清浄な心身になることが必要なのかもしれません。



火渡り



京都切廻り 八坂神社



採燈護摩



茅の輪

新檀信徒総代紹介

今まで檀信徒総代としてご尽力いただきました石本様と秋葉様のご退任されました。つきましては、新たにお二人の檀信徒総代様をお迎えいたしましたのでこちらにご紹介させていただきます。どうぞお見知りおきくださいませ。



いしざわ とおる 石澤 透さん

当初、「仏教・お寺」と言う存在に特に何も感じず生活してきた私が、「お寺のお手伝い」をしても良いのかと悩みましたが、今は「お手伝い」を通して「仏教・お寺」に近感じたいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。



まえの くみ 前野 久美さん

祖母のこともあり、小さい時からお寺に近かったです。お寺に落ち着くと同時に元気に育つのが好きで、小赤、イモリを飼育しています。IT会社を経営しておりますがよろしくお願ひ致します。

NEW Info



1. 本堂前の幕

令和3年の春季彼岸会を機に、本堂前に白幕をかけました。幕にある紋は天台宗の宗紋である三諦星です。真ん中の結びのことを「華鬘」(けまん)と言い、元々は花飾りを表したものです。ご来山の際にどうぞご覧くださいませ。



2. 庭の改修

前年から実施しております庭の改修が一段落いたしました。本堂向かって右庭が大幅に改修されて、前庭の井筒から本堂裏まで水が流れているような作庭をしていただきました。新たに作られたハツ橋に水桶やゴミ箱、掃除用具等がまとめてありますので、ご利用くださいませ。立水栓は通路横に引き直し、石の水受けも敷きましたので花筒等もお洗い頂けます。



3. ボランティアベンダー(寄付型自動販売機)



普賢寺駐車場の前に設置している自動販売機の売上の一部をNGO法人に寄付をするように致しました。

多磨霊園の職人さんたちによくご利用頂いております。



寄付先:
メイクアイウィッシュオブジャパン (難病子供支援)
ハンガー・フリー・ワールド (世界の飢餓支援)

5. 寺ヨガ再開

寺 普賢寺

具崎 美千
市川 真紀
松下 明希

Yoga START

第1・3火曜日→普賢寺にて開催
10:00~11:15
(お身後ご住職様より15分お話し)
第2・4火曜日→オンライン開催
10:00~11:00

4月より寺ヨガを再開しました。毎月第1・3火曜日 10:00~寺でヨガしております。ヨガの後は、住職の法話もあります。※第2・4はオンラインで法話無ご興味をお持ちの方は、是非お問い合わせくださいませ。

仏教

そもそも論

そもそもお布施とはなにか



寺と皆様との間でよく聞かれる問答がございます。

「お布施はおいくら位お包みすればよろしいでしょうか？」

「お気持ちで結構ですよ」

普段の生活の中では全てのものに「値段」があるので、値段がないものに触れると困惑してしまうのは当然なのかもしれません。しかし、やはりお布施は値段のない「お気持ち」として扱おうと思っております。布施の原義は梵語で「Dana」であり、「施し」や「与える」という意味です。仏教において大切な修行として数えられております。現在では、お布施は金という考え方が一般的かもしれませんが、仏教の考えはお布施は、決してお金だけではありません。優しい言葉をかけることも、お手伝いをする 것도、笑顔をふりまくことも、全て布施にあたります。また、布施のことを喜捨とも呼び、執着を喜んで捨てるという意味もあります。

その意味において、お布施は自分自身が決めるものであり、お金の意味である「財施」であれば各家の経済状況や心境などに依って異なるのかと存じます。頂戴するお布施自体も布施の気持ちが循環するように、施しの気持ちで役立てられるよう心がけております。それでも値段をお聞きしたい方は、普賢寺の相場をお伝えは出来ませんが、どうか無理なくご喜捨頂ければと存じます。

4. 護摩壇門標、釜の新調

毎月護摩供で修法をしている護摩壇の門標(前の支柱)と釜を新調いたしました。

今までの門標は少し低く、お不動様と重なることがあったのですが、新しい門標は高くなり重なることもなくなりました。また、釜を深く広いものにすることによって、修法もしやすくなりました。修法環境を整えることによって、皆様のお願ごとや安寧を、より心を込めて祈願することが出来るようになりました。是非機会がございましたら、毎月28日に厳修している護摩供にもお越しく下さいませ。



6. 永代供養墓字彫りのご寄付

寄進者: 青柳智久様

普賢寺の永代供養墓に、字彫りのご寄付をしていただきました。左右に「普賢寺 永代供養墓」上部には阿弥陀如来を表す梵字「キリク」が彫られました。誠にありがとうございました。

